



# 鹿児島県立 鹿児島東高等学校

生徒数 172人  
学級数 6クラス



テーマ

「他者を思いやり、互いに認め合う力を育むことで、自己肯定感を高める力の育成」

## 研究に当たって(テーマ設定の理由)

本校の生徒は、自己肯定感や自尊感情が醸成されるような機会を得ることが比較的少ないと思われる。そのため自分自身のことすら大切にできず、自分はおろか他人の心身までも傷つけてしまうことがある。今回の学びにおいて、職員・生徒がともに、お互いをかけがえのない存在として敬い合いながら、毎日楽しく過ごせることを期待してテーマを設定した。



【生徒への講話】

## 研究スケジュール

7月1日(水)【生徒、教職員】

～H I V感染者等の人権～

「コロナ禍」という言葉が登場してきた頃であり、時機にかなった内容となった。

8月26日(水)【教職員】

～性的マイノリティに係る人たちの人権～

「LGBTQ」の認識が深まってきつつある昨今、用語の定義から考えるいい機会となった。

12月2日(水)【生徒、教職員】

～障害者の人権～

「階段」や「文字による表示が無いこと」が「障害」であって、個人に障害があるわけではないという気づきを得ることができた。

## 特色ある取組(他校にもおすすめの取組)

- 全学年の合同 LHR 「いのちの授業」では、現役の助産師3人の方に講話をしていただき、「生命誕生の奇跡」や「様々な性に関する理解」など生物学的なアプローチから自己肯定感を高めることができた。
- 昼食時間に校内放送でクラシック音楽を流し、穏やかな時間を過ごすように工夫している。
- 生徒会役員を中心に「制服を正しく着よう」などと声を掛け合うことで学年を超えたつながりができ、生徒同士の人間関係に広がりが見えた。
- スクールポリシー「CHANCE! (今この瞬間を!)」「CHALLENGE! (ここで挑戦しよう!)」「CHANGE! (変わることは成長だ!)」をロゴマークにデザイン化する事業に学校全体で取り組んだことで、生徒職員一同に「自分が気がついた瞬間に新しく生まれ変わるんだ!」という前向きな気持ちが生まれた。



## 子どもの人権プロジェクト推進校の取組の成果と課題(子供の変容,よかったこと,今後やってみたいこと)

- LGBTQについて学ぶ LHR や研究授業が増え、生徒たちの意識向上に繋がっている。
- 職員・生徒ともに十人十色の生き方や人生観について考えるきっかけとなった。